

2021年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [鈴木涼之介]

学年・組・番号 [2年E組7番]

研究課題： 秋山郷における秘境イメージの妥当性

(英文) Validity of unexplored image in Akiyama-go

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200～400字で記入してください)

本研究の目的は江戸時代の山村における外部交流の実態を明らかにすることである。もともと江戸時代の農村における情報伝達に興味があり、今回のテーマもこの様な動機から選んだ。秋山郷をフィールドに選んだ理由は、ある文献で秋山郷が桃源郷と捉えられていたからである。文化が成熟し、情報伝達が盛んになった江戸時代において、中央との情報が途絶えた桃源郷が存在するのかについて疑問に思った。そこで、文献調査と実地調査を行い、課題解決を試みた。具体的に文献調査では早稲田大学図書館等を利用して、複数の先行研究を参照することを目的とした。しかし、秋山郷と距離が離れた東京では十分な情報が揃わなかったため、より多くの正確な情報を求めて実地調査を計画した。そして、実地調査では現地の郷土資料館訪問や現地の方々へのインタビューを実施し、文献以外の視点からも課題に対してアプローチすることができた。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200～400字で記入してください)

文献調査により、この時代に作られた秘境イメージが現代の秋山郷像に影響していることが分かった。そして、秋山郷に対する秘境イメージの源流が近世に見られることも分かった。よって、秘境イメージの妥当性を検討するためには近世の秋山郷像を検討する必要がある点を理解した。現地調査で訪れた「とねんぼ」の二つの展示資料(添付写真を参照)と現地の方々の証言から、近世秋山郷には猟師を中心とした外部交流があった点を理解した。よって、この調査結果から近世の秋山郷に対する秘境イメージは適さないと結論付ける。また、一連の調査を踏まえて、現在の秋山郷に対する秘境イメージについても再検討する必要があると考える。今後は他の山村における外部交流の歴史を調査し、山村における情報伝達の実態を明らかにしていこうと思う。なお、本研究は「令和3年度 鳥居龍蔵記念 全国高校生歴史文化フォーラム」において入賞作品に選ばれた。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 鈴木涼之介

研究分担者 スミス頼安

担当教諭 柿沼亮介

(受給額：25000円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEBページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)

